

異分野連携で人を支えるAI技術を開発、 警備業界の働き方改革を目指す

山梨県を中心としたエリアで公共施設や大型商業施設の施設警備、大規模イベントや花火大会などの雑踏警備、公共事業を中心とした交通誘導警備を行う。独自のプログラムで警備員の研修を行い、品質の高い警備業務を提供している。近年は、警備員の確保が難しくなり、IT（AI、IoT）を活用したサービス展開で現場の生産性向上に取り組む。さらに、人材派遣やアウトソーシング業務など包括的なサービスで顧客のニーズに応えている。

●所在地	山梨県甲州市塩山上於曾1085-1 甲州市役所地下1階
●電話／FAX	0553-33-8068／0553-33-8048
●URL	http://www.taskmaster.jp/
●代表者	代表取締役 秋山 一也

●設立	2001年
●資本金	300万円
●従業員数	50人



AI、IoT技術活用でシステム商品開発、新たな収益源獲得

警備業界では、かつてないほどの人材の高齢化、人手不足に陥っている。従来、売上・利益の拡大には人手の確保が必須であり、直接売上に繋がらない活動に多くの労力を割く必要があった。そこで新たに、異分野連携によってAI、IoT技術を活用し人と協業できる警備システムを開発し、警備品質と生産性を向上させ顧客満足度を高めた。さらに、警備システムの販売と導入サポートやシステムメンテナンスといった新たな事業分野の開拓を実現、受注型業務からサービス提供型ビジネスへ転換し、事業拡大を図っている。



AI技術を活用した警備システム事業

AIとカメラを活用した交通誘導システムで警備業務を省人化

通常、片側交互通行の現場では、それぞれ交通誘導員が配置され無線で通信を行うことで交通誘導を行っており、3名の誘導警備員が必要となる。AIとカメラを活用した工事現場用道路交通誘導システムを活用することで、AIが車両等の接近を検知した場合、LED表示装置に「進行」や「停止」を意味する動画を自動的に表示する。これにより、3名現場を1名で行うことができるようになり未曾有の人員不足に陥っている警備員の1現場あたりの使用人数を減らし、警備業務の省人化を実現する。



人を支える交通誘導システム

人材の必要性の再定義を行いIT化に対応する人材教育に注力

警備業は教育産業といわれるほど人材教育は重要であり、特にサービス提供のIT化を進めるなかで、人が活躍すべき役割は変わってきており様々な教育、訓練方法で独自の人材教育を実施している。具体的には、業務適正を見極める診断テストを取入れ、人の特性に応じた教育を実施。効率的に教育を行うためのオンデマインド教育や複数の現場での実践教育も実施している。ITを活用しつつも、システムを使うのは人であり、緊急時等、最後は人の判断が必要となるため人材教育には力を入れている。



訓練の様子